

第3回とちぎヤングの会講演会 開催のご報告

テーマ：「時代（いま）を生きる わたしたちの1型糖尿病」

日時：2024年3月24日（日）10:00～12:00

会場：ホテルマイステイズ宇都宮 11階 グランドボールルーム A+B

開会の辞：長崎病院 内科 高橋 学先生

会長挨拶：獨協医科大学内科学（内分泌代謝） 薄井 勲先生

基調講演：座長 長崎病院 内科 門田 純子先生

「“1型ライフ”仲間の声を聴こう」

特別講演：座長 長崎病院 内科 千葉 泰子先生

演者 元阪神タイガース投手 岩田 稔様

「やらなしゃーない、1型糖尿病だからこそ僕ができたこと」

閉会の辞：小山イーストクリニック 名誉院長 大橋 博先生

※役割者の都合上、本会の一部の内容のみについて本議事録には記されております。
ご了承ください。

本講演会は下記のリンクの下野新聞（2024年3月25日）にも掲載されております。

.....



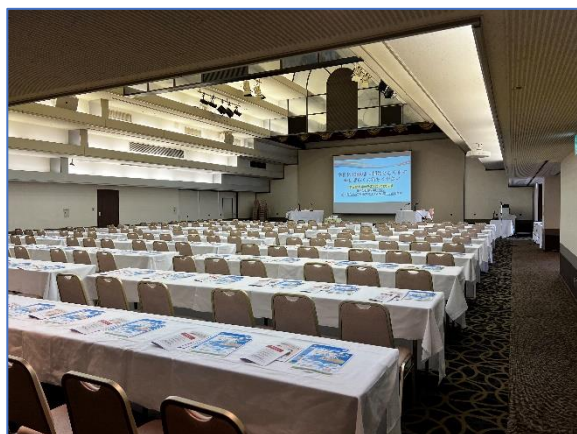
<https://www.shimotsuke.co.jp/articles/-/872954?top>

とちぎヤングの会講演会はコロナの影響から第1回の2022年、第2回2023年とオンラインでの開催を行っていたが、今回はとちぎヤングの会の立ち上げから初の対面での開催となった。(前身のヤングの会からは対面での開催は5年ぶりの開催。)

講演会当日は当初の100名の定員を大幅に上回る157名の方にご参加いただいた。

講演会会場には各企業の糖尿病に関連した資料の展示を行った。

講演会会場の様子



<開会の辞>

開会の辞では高橋 学先生（長崎病院 内科）より本講演会の概要についてご紹介いただいた。

<会長挨拶>

会長挨拶では薄井 勲先生（獨協医科大学 内科学（内分泌代謝）教授）よりとちぎヤングの会の会員数やこれまで活動についてご報告いただいた。



<基調講演>

基調講演では門田 純子先生（長崎病院 内科）を座長に、長崎病院に関係する3人の方に仕事や妊娠・出産についてご自身の経験をお話いただいた。

質疑応答ではインスリンポンプでの治療の経験談や日常生活での持ち物や工夫等についても回答いただいた。



<特別講演>

特別講演では座長の千葉泰子先生（長崎病院 内科）を座長に演者の岩田稔さん（元阪神タイガース投手）にご自身の経験についてご講演いただいた。

岩田 稔さんのプロフィール



MINORUIWATA

岩田稔

経歴：大阪桐蔭高校～関関 大学～阪神タイガース
通算成績：200試合 60勝82敗 防御率3.38
主な表彰：月間MVP（1回）
ゴールドスピリット賞
若林忠志賞
ガリクソン賞
ベストファーマー賞 in 関関
代表歴：WBC日本代表(2009年)
日米野球(2014年)

株式会社Family Design M 代表取締役
阪神タイガースコミュニティアンバサダー
もりぐち夢・未来大使(大阪府守口市)

MINORUIWATA



岩田さんは大阪桐蔭高校 2 年生の時、エースとしてチームメイトと甲子園を目指していたが、突然の 1 型糖尿病の診断を受ける。

診断結果に落ち込む中、担当医から同じ 1 型糖尿病ながらメジャーリーグや巨人で活躍したビル・ガリクソンのことを教えられ、彼の活躍に勇気づけられ再起を図る。

しかし入院や治療で休んだ分をと挽回しようと無理をした結果、今度は怪我で試合に出られず、目標だった甲子園にも出場することが出来なかった。

さらに追い打ちをかけるように病気を理由に内定をもらっていた社会人野球の企業からの内定取り消しにもあったが、そこから大学への進学と活躍、そして地元・阪神タイガースへの入団。

プロ入り後も怪我や不調、手術など様々な困難をはね除け、日本シリーズでの登板や WBC 日本代表として世界一にも輝いた。



2009年からは1型糖尿病患者・家族の支援団体「日本IDDMネットワーク」を通じ、1勝につき10万円を「1型糖尿病研究基金」に寄付。また「岩田稔基金」を設立し同病根治を目的とした研究助成のために寄付を行っていた。

その後も日本シリーズでの先発や貴重な中継ぎ左腕としても活躍した後、2021年シーズンをもって引退を表明。阪神タイガース一筋16年の現役生活を終えた。

引退後、1型糖尿病患者で一般社会、スポーツ、文化、科学、芸術などで活躍した人に対して日本糖尿病協会から贈られる賞で、岩田さんと同じ1型糖尿病を抱えながら巨人や大リーグで活躍したビル・ガリクソン氏にちなんで「ガリクソン賞」を受賞。

2022年からは阪神タイガースの「Community Ambassador」(コミュニティアンバサダー)に就任。

また株式会社Family Design Mを設立し、野球解説者/スポーツコメンテーターとして活動する傍ら、引き続き1型糖尿病の根治に向けた啓発活動を続けている。

最後に「病気になっていなかったら、今よりは弱い自分だっただろう」と力強くお話されていた。



<閉会の辞>

閉会の辞を次回の当番世話人である大橋 博先生（小山イーストクリニック）に本会の総括含めてお話いただいた。



最後は撮影をご承諾いただいた参加者の方々と岩田さんとで記念撮影を行った。
また、とちぎヤングの会宛てにサインを頂戴した。

